

鼓童文化財団の人材育成

くらす・まなぶ・つくる ～2023年11月～

「太鼓芸能集団 鼓童」メンバー養成コースの研修生は、豊かな自然に囲まれた研修所で共同生活を行い、くらし、農作業、祭りなどを通して、季節を肌で感じながら過ごします。

来年1月、2年生は準メンバーへの選考、1年生は進級選考の時を迎えます。

仲間と切磋琢磨し、また自分自身と深く向き合いながら、一生懸命成長しようとしている彼らの想いをぜひご覧ください。



春

入所式



後輩が入ってきて自分をもう一度振り返る時間。自分の研修生活、新しい自分との出会いが始まった日。すごく緊張した一日でした。

柿野浦の祭り



前日の食事作りは、入所して1週間の同期7人で力を合わせて一つになった瞬間でした。祭り終盤。お宮さんで鬼を打った時の風景は忘れられません。

宿根木公演



人前で演奏するため霧囲気作り、緊張感。すべてを学びます。

田植え



人生初田植え。足腰が痛かったです。楽しかったです。柿野浦の大地を感じながらの作業でした。

夏

アース・セレブレーション



お客さんではなくスタッフとして迎えるEC。普段は見られない準備の時から学ぶことがたくさんあった。一つの舞台でこれだけの人が関わっているのかという驚き。太鼓で佐渡で、世界がひとつになる事が身に染み込んだ日でした。

魚さばきの時間



まな板と包丁を綺麗にして使うことが大切だと学びました！

小木港祭り



小木の方々と鼓童との大切な関係を祭りに通して感じ、自分も祭りを作る人になった日！

秋

交流公演



自分が何を思い太鼓を叩くのか考える時間です。

柿の収穫・発送



綺麗な柿を見つけるのが嬉しくなります。箱に柿を詰めるのも楽しい！

岩首の祭り



岩首の方々の祭りに対する思いの強さに感動しました。

野外稽古



大自然の前に太鼓を叩くと、自分のちっほけさが分かります。

稲刈り



自分たちが一から育てた稲を収穫。全て刈り取った時の達成感最高でした。

収穫祭



自分達で考えて作りあげるイベント。大変だけれどやりがいもあります。自分達の得たものを発表し、学びを共有できる場所。研修所でつながる、そんな収穫祭にしたいです！

冬

新春駅伝



とてもきついけど、タスキをつなぐ楽しさがあった。

下半身強化期間



2年生が修了し、同期だけになる冬期間。毎日行ったキツイ足腰強化メニューが身になっている。

水口囃子の稽古



今までやったことがないお囃子。仲間とのコミュニケーションが大切！

発表会



同期全員で緊張の場を乗り切った感覚がありました。メンバーの前で演奏をする発表会。自分の精一杯の姿を出せるように…。



一年生

〈42期〉

- 1 研修所に来る前、何をしていたか
- 2 特技と苦手
- 3 研修所における自分(の役割、役どころ)
- 4 佐渡で見つけた宝物
- 5 自己紹介

木村優月 (きむら ゆづき)
18歳 埼玉県川越市出身

- 1 太鼓を叩いたり、ライブに行ったり、好きなことだけをしていた高校生
- 2 「特技」寝ること
- 3 「苦手」起きること
- 4 大はしゃぎ担当
- 5 同期。きらいになっても大切にしなければいけない不思議な宝物

原田斗嗣 (はらだ とうじ)
19歳 香川県三豊市出身

- 1 朝8時から夜8時までコンビニでバイトし、精神力と耐久力を鍛えていました
- 2 「特技」荒れた部屋をキレイにすること
- 3 「苦手」アロンアルファを飛び散らさずに使うこと
- 4 BBQの火起こし隊・散髪屋さん
- 5 自分の知らない世界はまだたくさんあると知れたこと

林昂汰 (はやし こうた)
23歳 滋賀県近江八幡市出身

- 1 イタリアンの居酒屋でアルバイト
- 2 「特技」雰囲気明るくすること
- 3 「苦手」自分をしっかり見つめること
- 4 ムードメーカー
- 5 山から見た、山々にはさまれる棚田と海の景色

田中大成 (たなか たいせい)
24歳 愛媛県宇和島市出身

- 1 自動車に関わる仕事をしていました
- 2 「特技」パチ作り、靴を使ったパントマイム
- 3 「苦手」部屋の片付け
- 4 田んぼ係、運転手
- 5 同じ志をもった同期

腹を括り続ける

圓岡瑞樹 (まるおか みずき)
20歳 東京都八王子市出身

二〇歳の僕が何百年も生きた木と、何十年も生きた牛の皮を叩いている。太鼓からしてみれば大変ちっぽけな僕に叩かれているのだから、何百年分の命を燃やさないと応えてくれないのだろうかと思う。太鼓を叩くたび命を燃やす太鼓打ちは、太鼓を叩かなかつたら長命なのではないだろうか。でも太鼓を叩くからこそ太鼓打ちは生きていられるのかもしれない。僕は太鼓を叩く覚悟を決めたつもりでいたが、決め続けることができなくなってきた。たくさん太鼓を叩いてたくさん失敗したおかげで、太鼓も研修生活も瞬間を反射的に生きるのではなく、覚悟と思考をし続けなければいけないと気付いた。腹を括って太鼓を叩き続け、自分を追い込んだ先の姿を想像している。



二年生

〈41期〉



稽古のないoffの朝はいつも猫と遊んでいます。最近子猫が産まれました!!

高木輝石 (たかぎ てるいし)
19歳 埼玉県ふじみ野市出身

- 1 埼玉にある一風変わった学校で、好きな事をして過ごしていました
- 2 「特技」モノ作り
- 3 「苦手」周りの流れを感じる事
- 4 モノ作り担当・修復担当
- 5 鬼太鼓・佐渡の持つすさまじい自然のパワー

「鼓童ハートビートラジオ」に研修生登場!

「鼓童ハートビートラジオ」は、普段、舞台上では感じることでできない演奏者やスタッフの声をお届けしたり、リスナーの皆様からの質問やメッセージ、リクエストにお答えするインターネット版ラジオです。YouTubeのほか、Spotify、AmazonPodcast、ApplePodcast、Anchor、Google Cast等、各種サービスからお聴きいただけます。第111回は「研修生の生の声をお届け!」と題して、ハートビートラジオ初、現役研修生が登場しました!ぜひご視聴ください!

- ♪リスナーの皆さんからの質問に研修生が答えます!
- ♪キツイ時、挫けそうになる時、研修生はどう乗り越えているのか?
- ♪鼓童との出会い、想い、感じる事もう少し聞かせてください!
- ♪そして日々頑張る研修生達が今伝えたい事とは!?



伝えるヒント「鬼太鼓」

おさき
尾崎 泰右
たいすけ

23歳 岡山県笠岡市出身

研修所に入り「どんなメンバーになりたいか」「お客様に何を伝えたいか」をよく聞かれる。答えが見つかりつつある。研修所のある柿野浦。その隣の隣の岩首。二つの集落の鬼太鼓を習い、祭りにも参加させてもらった。佐渡に来て鬼太鼓という芸能が大好きになった。二回次になり、宿根木公演や交流公演など、人前で演奏する機会が増えた。そこで僕は鬼太鼓を、地元の人に教わったことを今持てる全力を出して披露した。すると「鬼太鼓よかったですよ。祭りも見に行ってみよう」と言ってくれた方がいた。あたりまえかもしれないが、お客様の前で今持てる全力を出し切るだけ。鬼太鼓がくれたヒントを大切に、太鼓でも「また来たい」と思ってもらえるメンバーになりたい。



なんか好きでお気に入りの面と岩首の鬼太鼓のバチ

言葉の壁

はしもと
橋本 麻央
まお

20歳 東京都町田市出身

私は口下手で思っていることをなかなか言えません。研修所に来て、今まで自分がどれほど会話をしてこなかったのか思い知りました。今思えば、私は友達と話す時も聞き手になることが多かったように思います。集団生活の研修所では、コミュニケーションをとっていかないと色々な物事が進まないのに、誰かに任せてばかりで意見が言えずに苦しい思いもしました。でも、太鼓を叩いている時だけはそんな自分から解放されて「言いたいことを言っている私」になれて、周囲にある壁を乗り越えられている気がします。太鼓だけではなく、言葉でも壁を乗り越えなければいけません。社会に出る者として、大人になっていく者として、コミュニケーションがとれる私になるために今、ふんばっています。



本物の竹から作った竹バチと一緒に最善を尽くしてこれからも頑張ります！

夢を見つげる場所

かつべ
勝部 しずく
しずく

20歳 北海道豊浦町出身

はじめは勢い、ただそれだけで自分のバチなど持ったことになかった私が、一度きりの人生ぶつ飛んだことしてやろう！と研修所の門を潜りました。出会った同期は人それぞれ夢を追い掛け、太鼓を叩いている。一緒に頑張って死に太鼓を叩く毎日。決して簡単ではない日々の中で気づけば太鼓が楽しくなり、好きになっていく自分がいました。思うようになりませんでした。目の前で見えているのは途方もなく高く険しい山です。それでもあの舞台で自分が輝き、人を輝かせ、想いを届けられるなら、今ここで自分の本気を試したい。こんな私がここまで辿り着くことができた必然を信じて、研修所で見つけた夢に覚悟を持って立ち向かおうと思います。



陶芸の時間に作った作品と。うしろの実はかりんです。お風呂に入れるといいにおい！

研修所の成り立ちと地域とのつながり

柿野浦と廃校を機に

研修所がある集落、柿野浦(かきのうら)は、両津港から海岸線を車で四〇分ほど南下した前浜地区の十五戸余りの方々が暮らす集落です。

一九九六年四月、研修所が真野地区の旧大小(だいしょう)小学校から、柿野浦の旧岩首(いわくび)中学校の校舎に移転しました。

一九五二(昭和二六)年に完成した学校は、集落の皆さんが力を合わせ、材木や瓦を山の上まで運んで建てたものです。一九九五年三月に廃校になるにあたり、学区の各集落代表による校舎活用委員会が設けられ、解体することも検討されましたが、校舎がある柿野浦集落としては建設当時の先人の苦勞を考えると残したいという意見でまとまり、当時の両津市から貰い受けることとなりました。その際に、崩落の危険がある通学路の代わりに、現在使っている道をつけてもらうことになったそうです。

実はここは、鼓童のスタッフ・山中津久美の母校。人の縁にも恵まれ、地域の皆様に受け入れていただき、鼓童の研修所として借り受けることができました。



1

暮らしから学ぶ

集落の様々な作業を通して、生活の知恵・工夫・美を学びます。また、柿野浦や岩首など近隣の集落の祭りでは鬼太鼓を習い、芸そのものや人との繋がりの熱いものを感じます。

その他、野菜をいただいたり、水道や電気の不都合を解消してもらったり、人生相談をしたり。皆さんにお世話になることは数知れず。

研修生にとって柿野浦は第二の故郷。柿野浦の祭りの日には、懐かしい方々と再会を果たしに帰ってくる、修了生の姿を見るのができます。

研修所のこれから

柿野浦研修所とそこで過ごした時間は、鼓童メンバーの心の拠り所であり、常に立ち帰る場となっています。自然に抱かれ、一生懸命太鼓と向き合う経験を世代を超えて共有することが、鼓童のメンバーになるための土台となっていく予定です。

旧岩首中学校校舎をお借りした時、契約期間は三〇年間としました。長いと感じられましたが、数年先に区切りの年が見えはじめています。ここで研修所を続けられているのは研修生を支え、関わってくださる方々の存在があってこそ。「人のつながり」そして「自然」に恵まれた奇跡のような場所。この「奇跡」をつなげていくためにも、様々な環境を整えていかねばならないと考えています。



2

研修所の変遷

- 一九八五年 当時の本拠地であった旧大小小学校(真野町大小)にて研修生受け入れ開始。研修期間は半年。専任者なし。メンバーと研修生が生活を共にしながら稽古を行った。
- 一九八六年 旧高千北小学校(相川町北田野浦)に研修所を開設。(研修期間は一九九六年まで1年)
- 一九九一年 台風により研修所が甚大な被害を被る。
- 一九九二年 舞台班の拠点となる鼓童村の稽古場が竣工。大小を第1研修所とし、北田野浦を第2研修所とする。
- 一九九六年 旧岩首中学校(両津市柿野浦)に研修所を移転。
- 一九九七年 財団設立に伴い、研修所を2年制とする。
- 二〇一四年 「鼓童メンバー養成コース」のほかに「地域づくりにコース」を開設。試行第一期として深浦学舎に実習生2名を受け入れ。



3

- 1 柿野浦の祭り。研修所で鬼太鼓を打つ。
- 2 地元の大工さんから研ぎを習う。
- 3 祭り当日は地元の方や研修生、修了生などが大集合。

鼓童メンバー講師： [太鼓、唄、踊り、笛、邦楽器類、外部講師の稽古立会い 等]
藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、山口幹文、齊藤栄一、見留知弘、宮崎正美、阿部好江、小松崎正吾、地代純、三浦友恵

スタッフ講師 (主な担当)： 赤澤京(農作業・祭り稽古立会い・生活面全般)、石原泰彦(農作業・剣舞・生活面全般)
大井キヨ子(小木おけき踊り・裁縫)、後藤美奈子(俳句立会い)、菅野敦司(自由研究・鼓童の話)
本間康子(サンパ打楽器・能楽立会い)

二〇二三年講師の先生方

(五〇音順・敬称略)

- 青柳洋子 [能] 宝生流教授嘱託
- 赤塚五行 [俳句] 新潟日報佐渡版 俳句選者
- 朝倉大輔 [能] シテ方 宝生流能楽師
- 石川義純 [津軽手踊り] 宗家石川流師範
- 伊藤多喜雄 [唄] 民謡歌手
- 岩崎ちひろ [魚のさばき方] 魚屋
- 小木さざ波会 [小木おけき]
- 加藤健 / 加藤酒造店の皆様 [酒蔵見学・酒造り体験] [金鶴] 醸造元
- 金子竜太郎 [身体基礎] 和太鼓奏者
- 狩野泰一 [篠笛] 篠笛奏者
- 京矢彩希 [ボディワークトレーニング] [ピラティストレーナー]
- 金城光枝 [琉球舞踊] 琉球舞踊家・太圭流華の会師範
- 日下敬啓 [柿畑の作業] 弘仁寺住職
- 葛原正巳 [陶芸]
- 野上結美 [ヴォイストレーニング] 声楽家
- 野村和仁 [水口囃子] 水口ばやし 水口囃舎代表
- 松田祐樹 [講義] 佐渡の芸能研究者
- 桃井宗生 [茶道] 裏千家学校茶道教授
- 柿野浦、岩首地区 ならびに佐渡の皆様

鼓童文化財団研修所 ご支援のお願い

太鼓芸能集団「鼓童」の舞台を花にたとえれば、研修所はベースとなる土を耕し、根を育む活動にあたります。鼓童は財団を設立して以来、研修所を公益的な活動と位置づけて運営してまいりました。演奏の技術はもとより、その人間性すべてが舞台上にそのまま表れるとの考えから「くらす・まなぶ・つくる」を柱に、まず何よりも生き方を磨くことに重きを置いております。

ぜひ、夢に向かう研修生の思いを支えていただけませんか。皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。

なお、お寄せいただいた支援金は、公益財団法人への寄付金として、所得税(お住まいの自治体によっては住民税も)の優遇措置の対象となります。

研修生育成支援

1 研修所設備補修、研修生育成支援

1996年に旧岩首中学校の校舎跡をお借りして開所し、研修生の学び舎、そして生活の場でもある「柿野浦研修所」。築70年を越えて老朽化した建物は補修の必要があり、また研修所の運営にも年間約3,000万円の費用がかかります。

皆様より引き続き「研修生育成支援」にご協力いただけますようお願い申し上げます。

ご送金先

[郵便振替] 加入者名：公益財団法人鼓童文化財団
口座番号：00690-9-25829
「研修生育成支援」と明記の上ご送金ください。

[インターネット]

鼓童サイト「ご支援お申込みフォーム」ではクレジットカードをご利用いただけます。

銀行振込、郵便振替をご希望の方には、メールで口座情報をお知らせいたします。

www.kodo.or.jp/total_support

またはQRコードよりアクセスをお願いいたします。



1口1,000円より、任意の金額をお選びください。

2 鼓童×きしゃぼん 「どんどこリサイクル募金プロジェクト」



鼓童文化財団は「リサイクル募金きしゃぼん」の協働パートナーです。「きしゃぼん」は、ご自宅に眠っている本・DVDなどをリサイクル換金し、指定の団体(協働パートナー)に寄付する仕組みです。当プロジェクトを通じていただくご寄付は、研修生の支援に使わせていただきます。

おかげさまで、皆様からのご寄付により研修生の稽古用のバチ材を累計で1400組以上を購入することができました!(2015年より開始。2022年は1年間で239,828円、今年は9月までに8万円を超えるご支援をいただきました)

きしゃぼんでご支援くださる皆様には、研修生からのお礼の動画をお届けしています。ぜひご協力をよろしくお願いいたします。



[お問い合わせ] きしゃぼん(運営:嵯峨野株式会社)
フリーダイヤル 0120-29-7000
平日 9:00~18:00
URL: kishapon.com/kodo/

3 物による支援(インカインド)

鼓童では、物品等のご提供によるご支援も承っております。
ご支援をいただける方は、ぜひ鼓童文化財団までご連絡をいただけますようお願いいたします。

※ ②、③は税制上の優遇措置はございません。

■ 税制上の優遇措置について

当財団への寄付金や「鼓童の会」の会費は、特定公益増進法人への支援金として、確定申告により所得税等の優遇措置の対象となります。寄付額の最大40%が税金から控除されます。新潟県内にお住まいの方は、個人住民税(個人県民税)の税額控除を受けることができます。他の地域の方は、お住まいの都道府県、市町村の税務課へお尋ねください。

研修生募集

鼓童では次代を担う研修生を募集しています。
2024年度研修生の募集は11月24日まで。
あなたの可能性を試してみませんか。

www.kodo.or.jp/apr

